



機能とサービス

- [利用可能なテレフォニー機能 \(1 ページ\)](#)
- [機能ボタン \(13 ページ\)](#)
- [機能制御ポリシーの設定 \(14 ページ\)](#)
- [電話ボタン テンプレート \(16 ページ\)](#)
- [製品固有オプションの構成 \(17 ページ\)](#)
- [ビデオ送信解像度のセットアップ \(30 ページ\)](#)
- [インスタント メッセージングとプレゼンスの設定 \(31 ページ\)](#)
- [アプリケーションの設定 \(31 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager を介して Android APK ファイルをプッシュする \(33 ページ\)](#)

利用可能なテレフォニー機能

Cisco DX シリーズ デバイスは、Cisco Webex、Cisco Unified Presence、インスタントメッセージング、電子メール、ビジュアルボイスメール、Cisco Unified Communications Manager 音声およびビデオ テレフォニー機能など、統合されたコラボレーション アプリケーション スイートを提供します。これらのデバイスは、Google Play のアプリケーションもサポートしています。

Cisco DX シリーズ デバイスをネットワークにインストールし、それらのネットワーク設定を構成し、Cisco Unified Communications Manager に追加した後、Cisco Unified Communications Manager 管理を使用してテレフォニー機能を構成し、サービスをセットアップする必要があります。



-
- (注) Cisco Unified Communications Manager には、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービス パラメータもいくつかあります。サービス パラメータのアクセスおよび構成に関する詳細は、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。サービスの機能の詳細については、[サービス パラメータ 構成 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、パラメータ名または疑問符 (?) のヘルプボタンをクリックします。
-

エージェントのグリーティング

エージェントが事前録音したグリーティングを作成したり更新したりできるようにします。このグリーティングは、エージェントが発信者と話し始める前に、顧客コールの開始時に再生されます。エージェントは、必要に応じて1つまたは複数のグリーティングを事前録音できます。

詳細については、以下を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP 電話」の章
- 『Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager』、「割り込みとプライバシー」の章

エージェント グリーティングの有効化

手順

- ステップ1 [デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)] の順に選択します。
- ステップ2 構成するデバイスを見つけます。
- ステップ3 [デバイス情報 (Device Information)] レイアウト ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] または [デフォルト (Default)] に設定します。
- ステップ4 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ5 ブリッジの設定を確認します。
 - a) [System (システム)] > [Service Parameters (サービス パラメータ)] を選択します。
 - b) 適切なサーバおよびサービスを選択します。
 - c) [クラスタワイドパラメータ (デバイス - 電話) (Clusterwide Parameters (Device - Phone))] ペインまでスクロールして、[ビルトインブリッジの有効 (Builtin Bridge Enable)] を [オン (On)] に設定します。
 - d) [保存 (Save)] を選択します。

すべてのコール

ユーザーはアクティブコールと保留中のコールのリストを表示できます。このリストは、時系列順にソートされます (古い順)。ユーザーは、着信コールと完了コールのリストを表示することもできます。このリストは、新しいものから古いものの順にソートされます。

プライマリ回線における全コール

プライマリ回線がすべてのコール機能を引き継ぐことを許可します。すべての着信コールはプライマリ回線のコールリストに表示され、プライマリ回線で応答できます。

自動応答

呼出音を1～2回鳴らした後に、着信コールを自動的に接続します。自動応答は、スピーカーフォンとヘッドセットのどちらでも機能します。デバイスでヘッドセットの自動応答が有効になっていても、ヘッドセットがデバイスに接続されていない場合、デバイスはコールに自動的に応答しません。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「「電話番号の設定」」の章を参照してください。

自動ダイヤル

ユーザーは、発信、着信、不在着信を含む[最近の通話履歴 (Recent Call History)]で一一致する番号を選択できます。コールを発信するには、これらのコールリストのいずれかから番号を選択するか、手動で番号を入力します。

割り込み

ユーザーが共有電話回線でプライベートコール以外のコールに参加できます。割り込みによって、コールは会議に切り替えられます。ユーザーと他の参加者は、会議機能にアクセスできません。



- (注) [ビルトインブリッジ有効化 (Built In Bridge Enable)] サービスパラメータが[オフ (Off)]に設定されている場合でも、ユーザーは割り込みを使用できます。ユーザーがデバイスで割り込み機能を使用できないようにするには、デバイスの機能管理ポリシーで割り込みを無効にする必要があります。

詳細については、以下を参照してください。

- 『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』、「「Cisco Unified IP 電話 セットアップ」」の章
- *Cisco Unified Communications Manager* 『システムガイド』の「「Cisco Unified IP 電話」」章
- 『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』、「「割り込みとプライバシ」」章
- 『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』、「「機能管理ポリシー」」章

ビジーランプフィールド

ユーザーは、デバイスのスピードダイヤルボタン、通話記録、ディレクトリリストに関連付けられている電話番号のコール状態をモニタできます。

詳細については、『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「IM および在籍サービス」の章を参照してください。

Call Forward

ユーザは、着信コールを別の番号にリダイレクトできます。コール転送オプションには、すべてのコールの転送、話中転送、無応答時転送、およびカバレッジなし時転送があります。

追加のコマンド オプションは次のとおりです。

- 対象の番号から発信されたコールを転送ではなく着信させます。
- コール転送ループがコール転送チェーンの最大リンク数を超えないようにします。

コール転送オプションは、回線ごとに割り当てることができます。

詳細については、以下を参照してください。

- 『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』、「[電話番号の設定 (Directory Number Setup)]」の章を参照してください。
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』 「Cisco Unified IP 電話」の章。

発信回線 ID

発信者回線の識別に使用する完全な外線番号を有効にすることができます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「Cisco Unified IP 電話」の章を参照してください。

発信回線 ID の表記

ユーザーは、ケースバイケースで発信者番号を有効または制限できます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「Cisco Unified IP 電話」の章を参照してください。

Cisco エクステンション モビリティ

ユーザーは、共有デバイス上の Cisco エクステンション モビリティ サービスにログインすることで、共有デバイスから自分のデバイス構成（ラインアピランス、サービス、短縮ダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。

Cisco エクステンション モビリティは、社内の複数の場所でユーザが業務を行う場合や、作業場を同僚と共有する場合に便利です。



- (注) この機能は、Expressway を介したモバイルおよびリモート アクセスで展開されている DX シリーズ デバイスではサポートされていません。

デバイスにログインするために、ユーザーは管理者が提供するエクステンションモビリティのログイン情報を入力します。これらのログイン情報は、ユーザーの画面ロック PIN とは異なります。

詳細については、『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「エクステンションモビリティ」の章を参照してください。

拡張モビリティ/マルチユーザー

拡張モビリティ マルチユーザー機能は、拡張モビリティのログイン/ログアウト プロセスを使用します。ユーザーがログインすると、Cisco Unified Communications Manager サーバがユーザー ログイン情報を認証します。サーバは拡張モビリティ機能と同じメッセージングスキームを使用します。

ユーザー A がデバイスに初めてログインすると、デバイスはリブート サイクルを実行し、デバイス上にユーザー A のユーザー パーティションを作成します。デバイスは、ユーザー A にセットアップウィザードを表示します。ユーザー A は個人用アプリケーションとデータ専用のスペースを取得し、コールアプリケーションは Cisco DX シリーズ デバイスと同様に動作します。最初のログイン後、ユーザー A はアプリケーション関連の設定を行います。ユーザー A がこのデバイスからログアウトすると、ユーザー A が次にデバイスにログインするときに、ユーザー設定が保存されます。

ユーザー A がデバイスからログアウトすると、ユーザー B はユーザー B のログイン情報を使用してデバイスにログインできます。ユーザー B は、ユーザー B のパーティションを取得すると、同じエクスペリエンスを実現します。最初のログインでは、セットアップウィザードはユーザー B に個人用アプリケーションとデータをセットアップするように求めます。また、ユーザー B には、Cisco DX シリーズ デバイスで通常どおりに動作するコールアプリケーションもあります。

パーティションは完全に分離されているため、どのユーザーも他のユーザーのデータを見ることはできません。

拡張モビリティ マルチユーザーは、エンタープライズ マルチユーザー アプローチを提供します。システム管理者は、拡張モビリティ マルチユーザー用に設定するデバイスを決定し、特定のデバイスにログインできるユーザーにログイン情報を提供します。適切なログイン情報を使用すると、ユーザーは特定のデバイスにのみログインし、自分のアカウントを構成できます。これには、自分のアカウントの削除も含まれます。ユーザーは、同じデバイス上の他のユーザーのアカウントを変更できません。

アルゴリズムによって、特定のデバイスにログインできるユーザーの数が制限されます。デバイスの最大ユーザー数は、各ユーザーの使用状況によって異なります。デバイスのフラッシュメモリが特定の商を下回ると、最も最近ログインしたユーザーのアカウントが削除され、新しいユーザーがログインするためのスペースが作成されます。したがって、新しいユーザーがスペース不足でログインに失敗することはありません。

Cisco Extension Mobility

DX シリーズ デバイスの Cisco Extension Mobility を構成するには、次の手順に示す順序で手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)] を選択し、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- デバイス タイプを入力します。
 - [デバイス プロファイル名 (Device Profile Name)] を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
 - ディレクトリ番号と必要な情報を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザー管理 (User Management)] > [エンドユーザー (End User)] を選択し、ユーザーを作成します。
- [Extension Mobility 利用可能プロファイル (Extension Mobility Available Profiles)] で、ユーザー デバイス プロファイルを選択し、下矢印をクリックします。これにより、選択したサービスが [制御されたプロファイル (Controlled Profiles)] ボックスに配置されます。
 - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 3** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- デバイス タイプを選択します。
 - ユーザー ID を選択します。
 - [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] 領域の [Extension 情報 (Extension Information)] で、[Extension Mobility の有効化 (Enable Extension Mobility)] をオンにします。
 - [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] 領域で、[マルチユーザー (Multi-User)] ドロップダウンリスト ボックスの [有効 (Enabled)] の値を選択します。
-

Cisco Mobility

ユーザは、1つの電話番号を使用してビジネスコールを管理したり、デスクトップフォンおよび携帯電話などのリモートデバイスで、進行中のコールをピックアップしたりできます。また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。

Cisco DX シリーズ デバイスの Cisco Mobility には、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0(1) 以降が必要です。

詳細については、『『Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager』』の「Cisco モビリティ」の章を参照してください。

会議

- ユーザーは複数の相手と同時に会話することができます。そのためには、各参加者に個別にコールを行います。
- 標準（アドホック）会議では、参加者が参加者を追加または削除できます。
- ユーザーが、同一電話回線上にある2つ以上のコールに参加し、1つの会議コールとして接続したうえで、そのコールに留まることができます。

これらの機能を有効にするには、[拡張アドホック会議（Advanced Adhoc Conference）] サービスパラメータ（Cisco Unified Communications Manager ではデフォルトで無効）を使用します。

会議の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「「会議ブリッジ」」の章を参照してください。

セキュアな会議

セキュアな会議では、セキュアなデバイスがセキュアな会議ブリッジを使用して電話会議を行うことができます。新しい参加者が追加されると、すべての参加者がセキュアなデバイスを使用している限り、[セキュア コール（Secure Call）] アイコンが表示されます。

詳細については、次の各項を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「「会議ブリッジ」」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』、「「会議ブリッジの設定」」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』

即転送

拡張即時転送を有効にすると、ユーザーはこの機能を使用して、着信コールをボイスメッセージング システムに直接転送できます。

コールをボイスメールに転送する方法の詳細については、「『Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager』」の「「即時転送」」の章を参照してください。

拡張即時転送の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「「Cisco Unified IP 電話」」の章を参照してください。

サイレント

DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。



(注) DND は 911 コールに影響しません。

次の DND 関連のパラメータは、Cisco Unified Communications Manager 管理で構成できます。

- [サイレント (Do Not Disturb)] : このチェックボックスを使用すると、デバイスごとに DND を有効にすることができます。Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)] を選択します。
- [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] : DND がアクティブのときに着信コールに対してデバイスでアラートを発生させる場合、その再生するアラートのタイプを選択します。このパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ両方にあります。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの値が優先されます。

詳細については、「『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』」の「「サイレント」」の章を参照してください。

ゲートウェイ録音

この機能は、コールを録音サーバーに送信するように Media Gateway に指示し、コールモニタリングを改善します。

詳細な情報と手順については、『『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』』の「「モニタリングと録音」」の章を参照してください。

保留状態

共有回線を持つデバイスでは、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できます。

保留と保留解除

ユーザは、接続されたコールをアクティブな状態から保留状態に移行できます。

保留音

発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。

詳細については、「『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』」の「「保留音」」の章を参照してください。

無視

ユーザーが通知ウィンドウから着信コールを無視できるようにします。

メッセージ受信インジケータ

ハンドセットのランプの1つで、ユーザーに対する1つまたは複数の新着ボイスメッセージが届いていることを示します。

詳細については、以下を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』、「「メッセージ待機設定」」の章
- Cisco Unified Communications Manager 『システムガイド』の「「Cisco Unified Communications Manager へのボイス メール接続」」の章

ミュート

デバイスのスピーカー、ハンドセット、ヘッドセットなど、すべての入力デバイスの音声入力をミュートします。

プラス ダイヤル

ユーザーが先頭にプラス + 記号を付けて E.164 番号をダイヤルできるようにします。

+ 記号をダイヤルするには、ユーザーは * キーを 1 秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフックまたはオフフック通話の最初の桁をダイヤルする場合にのみ適用されます。

保護されたコール

2つのデバイス間のセキュアな（暗号化された）接続を提供します。コールの開始時にセキュリティトーンが再生され、両方のデバイスが保護されていることが示されます。会議コール、共有回線、回線を超えた参加などのいくつかの機能は、保護されたコールが構成されている場合利用できません。保護されたコールは認証されません。

詳細については、『『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』』を参照してください。

着信音の設定

デバイスに別のアクティブコールが着信したときに、回線で使用する呼出音タイプを指定します。

詳細については、「『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』」の「「電話番号の設定」」の章を参照してください。

呼出音

ユーザーは、着信コールや新しいボイスメッセージをデバイスで示す方法をカスタマイズできます。

セキュアおよび非セキュアの通知トーン

デバイスが Cisco Unified Communications Manager でセキュア（暗号化され、信頼できる）なものとして構成されている場合、「保護」というステータスを割り当てることができます。その

後、必要に応じて保護されたデバイスは、コールの開始時に通知トーンを再生するように構成できます。

- [保護されたデバイス ()] : Cisco Unified Communications Manager 管理でセキュア デバイスのステータスを保護に変更するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話構成 (Phone Configuration)] の [保護されたデバイス (Protected Device)] をオンにします。
- [セキュアインディケーショントーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] : 保護されたデバイスで、セキュアまたは非セキュアな通知トーンの再生を有効にするには、[セキュアインディケーショントーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] を [はい (True)] に設定します。(デフォルトは [いいえ (False)] です。) [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の Cisco Unified Communications Manager 管理のこのオプションを設定します。サーバーおよび Cisco CallManager サービスを選択します。[サービスパラメータ構成 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[機能 - セキュアトーン (Feature - Secure Tone)] 領域内にあるオプションを選択します。(デフォルトは [いいえ (False)] です。)

保護されたデバイスだけで、セキュアまたは非セキュアなインディケーショントーンが再生されます。(保護されていないデバイスにはトーンが聞こえません)。コール中にコール状態全体が変化すると、それに応じて表示音も変化します。その時点で、保護されたデバイスは適切なトーンを再生します。

保護されたデバイスは、このような状況でトーンを再生します。もしくは、再生しません。

- トーンを再生するオプションを有効にすると、[セキュア通知トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] オプションが有効 (True) になります。
 - エンドツーエンドのセキュアなメディアが確立され、コールステータスがセキュアになった場合、デバイスはセキュア インディケーション トーン (間に小休止を伴う 3 回の長いビープ音) を再生します。
 - エンドツーエンドの非セキュアなメディアが確立され、コールステータスが非セキュアになった後、デバイスは非セキュア通知トーンが再生されます (間に小休止を伴う 6 回の短いビープ音) 。
- [セキュアインディケーショントーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] オプションが無効になっている場合、トーンは再生されません。

サービスアビリティ

管理者は、デバイスからデバッグ情報を素早く簡単に収集できます。

この機能は、SSH を使用して各電話にリモートでアクセスします。この機能を使用するには、各電話機の SSH が有効になっている必要があります。

共有回線

複数のデバイスで同じディレクトリ番号を共有したり、ディレクトリ番号を同僚と共有したりできるようにします。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Managerシステムガイド*』の「「ディレクトリ番号」」の章を参照してください。

スピードダイヤル

特定の接続先電話番号への短縮ダイヤルを構成できます。

転送

ユーザは、接続されているコールを自分のデバイスから別の番号にリダイレクトできます。

ユーザーは2つのコールを相互に接続できます。ユーザーは、通話を継続することも、通話を継続せずにコールを転送することもできます。

Uniform Resource Identifier ダイヤリング

Uniform Resource Identifier (URI) ダイヤル機能により、ユーザーは英数字の URI アドレスをディレクトリ番号として使用して電話をかけることができます (例: **bob@cisco.com**)。接続先を選択するには、ユーザーが URI アドレスを入力する必要があります。

スクリーンに、URI コールのコール情報が表示されます。コールログは、電話機の通話履歴および [詳細 (Details)] ページに URI コール情報が保存されます。

詳細については、「『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』」を参照してください。

ビデオのトグル

ユーザーは、ビデオ コール中にビデオのオンとオフを切り替えることができます。

ボイス メッセージ システム

コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。

詳細については、以下を参照してください。

- 『*Features and Services Guide for Cisco Unified Communications Manager*』
- 『*Cisco Unified Communications Managerシステムガイド*』の「「Cisco Unified Communications Manager へのボイス メール接続」」の章

ビジュアルボイスメールのセットアップ

ビジュアルボイスメールは、Cisco Unified Communications Manager 管理から、すべてのデバイスまたは個別ユーザーまたはユーザグループに設定されます。すべてのデバイスにビジュアルボイスメールを構成する場合は、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] を選択し、[標準共通電話プロファイル (Standard Common Phone Profile)] を選択します。
- ステップ 3 [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] ウィンドウで、[ボイスメールサーバ (プライマリ) (Voicemail Server (Primary))] フィールドに次の情報を入力します。
 - Cisco Unified IP Phone スタンドアロン構成用に を構成する場合は、Cisco Unified IP Phone システムの完全修飾ドメイン名を入力します。
 - Cisco Unified IP Phone フェールオーバー構成用に を設定する場合は、Cisco Unified IP Phone システムの DNS エイリアスを入力します。
- ステップ 4 変更を保存し、[構成の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ビジュアルボイスメールの構成と同期の詳細については、『『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』』の「「ボイスメールプロファイルの構成」」の章を参照してください。

特定のユーザーまたはグループ向けのビジュアルボイスメールの設定

特定のユーザーまたはユーザーのグループにビジュアルボイスメールを構成する場合は、次の手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [デバイス電話 (Device Phone)] を選択します。
- ステップ 2 検索するユーザーに関連付けるデバイスを選択します。
- ステップ 3 [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] ウィンドウで、[ボイスメールサーバ (プライマリ) (Voicemail Server (Primary))] フィールドに次の情報を入力します。
 - Cisco Unified IP Phone スタンドアロン構成用に を構成する場合は、Cisco Unified IP Phone システムの完全修飾ドメイン名を入力します。

- Cisco Unified IP Phone フェールオーバー構成用にを設定する場合は、Cisco Unified IP Phone システムの DNS エイリアスを入力します。

ステップ 4 変更を保存し、[構成の適用 (Apply Config)] をクリックします。

ステップ 5 [リセット (Reset)] および [再起動 (Restart)] を選択して、新しい設定をデバイスに配信します。

ステップ 6 デバイスでセキュアメッセージを許可するには、Cisco Unified Communications Manager 管理から、[システム設定 (System Settings)] > [詳細 API 構成 (Advanced API Configuration)] を選択し、[CUMI によるセキュアメッセージ録音へのアクセスを許可 (Allow Access to Secure Message Recordings through CUMI)] と [CUMI によるメッセージ添付ファイルを許可 (Allow Message Attachments through CUMI)] の両方を有効にします。

ステップ 7 ディレクトリ写真がビジュアルボイスメールで構成されるように Cisco Unified Communications Manager を構成するには、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [共通電話プロファイル (Common Phone Profile)] を選択し、[共通電話プロファイル (CommonPhone Profile)] を選択して、[会社の写真ディレクトリ (Company Photo Directory)] フィールドに組織の写真ディレクトリの URL を入力します。

ビジュアルボイスメールの構成と同期の詳細については、『『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』』の「「ボイスメールプロファイルの構成」」の章を参照してください。

機能ボタン

次の表に、コール制御バーで利用可能な機能や、プログラム可能な機能ボタンとして構成が必要な機能に関する情報を提供します。この表の「X」は、その機能が対応するボタンのタイプでサポートされることを意味します。2つのボタンタイプのうち、プログラム可能な機能ボタンだけは Cisco Unified Communications Manager の管理ページでの設定が必要です。

表 1: 機能と対応するボタン

機能名	コール制御バー ボタン	プログラム可能な機能ボタン
折り返し		×
Call Forward	X	
すべてのコールの転送		○
コールパーク	×	
コールピックアップ		X
Cisco Mobility		X
会議 (追加)	X	

機能名	コール制御バー ボタン	プログラム可能な機能ボタン
転送 (Divert)		X
サイレント		×
終了	X	
グループピックアップ		×
保留	×	
ハントグループ		×
インターコム		○
迷惑呼 ID (MCID)		×
Meet Me		×
プライバシー		X
リダイヤル		X
共有 (DX70 および DX80 のみ)	×	
スピードダイヤル		X
動画の停止		X
転送	X	

機能制御ポリシーの設定

Cisco DX シリーズ デバイスでの一部のテレフォニー機能の表示を制限するには、機能制御ポリシー構成でこれらの機能を有効または無効にします。機能制御ポリシー構成で機能を無効にすると、その機能へのユーザー アクセスが制限されます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager 管理から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を選択します。
[機能制御ポリシーの検索と一覧表示 (Find and List Feature Control Policy)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして、一連のポリシーを定義します。
- ステップ 3 次の設定値を入力します。
 - [名前 (Name)] : 機能制御ポリシーの名前を入力します。

- [説明 (Description)] : 説明を入力します。
- [機能制御 (Feature Control)] セクション : デフォルト設定を変更する機能のチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 次の設定に含めて、Cisco DX シリーズ デバイスにポリシーを適用します。

- [エンタープライズ パラメータ構成 (Enterprise Parameters Configuration)] : システム内のすべての Cisco DX シリーズ 個のデバイスに適用されます。
- [共通の電話プロファイル構成 (Common Phone Profile Configuration)] : グループ内のすべての Cisco DX シリーズ 個のデバイスに適用されます。
- [電話の構成 (Phone Configuration)] : 個々の Cisco DX シリーズ デバイスに適用されます。

機能管理ポリシーのデフォルト値

次の表に、構成できる機能のリストとデフォルト値を示します。

表 2: 機能管理ポリシーのデフォルト値

機能	[デフォルト値 (Default value)]
割込み	有効
コールバック	有効
コールピックアップ	[無効 (Disabled)]
会議リスト	有効
転送 (アラート)	[無効 (Disabled)]
即転送(接続済み)	[無効 (Disabled)]
不在転送 (Forward All)	有効
グループコールピックアップ	[無効 (Disabled)]
Meet Me	[無効 (Disabled)]
モビリティ	[無効 (Disabled)]
他のコールピックアップ	[無効 (Disabled)]
パーク	[無効 (Disabled)]
リダイヤル	有効
発信者のレポート	[無効 (Disabled)]
品質のレポート	[無効 (Disabled)]
スピードダイヤル	有効

詳細については、「『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』」の「機能制御ポリシーの設定」の章を参照してください。

電話ボタンテンプレート

電話ボタンテンプレートを使用すると、スピードダイヤルやコール処理機能をプログラム可能なボタンに割り当てることができます。

テンプレートの変更は、可能な限りデバイスをネットワークに登録する前に行ってください。この順序に従うと、登録の実行中、カスタマイズした電話ボタンテンプレート オプションに Cisco Unified Communications Manager からアクセスできます。

電話ボタンテンプレートの変更

電話サービスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「IP 電話サービス設定」の章を参照してください。回線ボタンの構成の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone 設定」の章および「スピードダイヤル ボタンの構成」のセクションを参照してください。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager 管理から、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 デバイス モデルを選択します。
- ステップ 4 [コピー (Copy)] を選択し、新しいテンプレートの名前を入力して、[保存 (Save)] を選択します。
[電話ボタンテンプレートの構成 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5 割り当てるボタンを確認して、機能が表示されるドロップダウンリストから、その回線に関連付ける [サービス URL (Service URL)] を選択します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックして、サービス URL を使用して新しい電話ボタンテンプレートを作成します。
- ステップ 7 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、電話機の [電話の構成 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 8 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックして変更を保存し、[リセット (Reset)] をクリックして変更を実装します。

これで、ユーザーがセルフ ケア ポータルにアクセスできるようになり、デバイスのボタンにサービスが関連付けられました。

製品固有オプションの構成

Cisco Unified Communications Manager Administration では、次のいずれかのウィンドウで、デバイスの製品固有の構成パラメータを設定できます。

- [エンタープライズ電話の構成 (Enterprise Phone Configuration)]ウィンドウ ([システム (System)]>[エンタープライズ電話の構成 (Enterprise Phone Configuration)])
- ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)]の [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]ウィンドウ ([デバイス (Device)]>[デバイス設定 (Device Settings)]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)])
- ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)]の [デバイス構成 (Device Configuration)]ウィンドウ ([デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]>[新規追加 (Add New)]>[Cisco DX650]、[Cisco DX70]、または [Cisco DX80])

パラメータを設定した後、更新する各設定の [共通設定のオーバーライド (Override Common Settings)]チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。3つの構成ウィンドウでパラメータを設定する場合、以下の順序で設定が優先されます。

1. [デバイス構成 (Device Configuration)]ウィンドウ
2. [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]ウィンドウ
3. [エンタープライズ電話の構成 (Enterprise Phone Configuration)]ウィンドウ

次の表に、[デバイス構成 (Device Configuration)]ウィンドウで使用可能な製品固有の設定オプションを示します。[デバイス構成 (Device Configuration)]ウィンドウでは使用できない[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]ウィンドウで使用できる他の製品固有の構成オプションがありますが、これらの他のオプションはDXシリーズデバイスに影響しない場合があります。

表 3: Cisco DX シリーズ 製品固有の構成オプション

特長	説明
スピーカーフォンを無効にする (Disable Speakerphone)	スピーカーフォン機能のみを無効にします。スピーカーフォン機能を無効にしたセットには影響しません。ハンドセットまたはヘッドセットで回線とスピーカを使用できます。 デフォルト : False

特長	説明
スピーカーフォンおよびヘッドセットの無効化	すべてのスピーカーフォン機能とヘッドセットマイクを無効にします。 デフォルト：False
[USBを無効にする (Disable USB)]	デバイス上の USB ポートを無効にします。 デフォルト：False
[SDIO]	電話の SDIO デバイスが有効であるか、無効であることを示します。 デフォルト：[無効 (Disabled)]
[Bluetooth]	デバイスの Bluetooth サービスが有効であるか、無効であることを示します。 デフォルト：有効
Bluetooth 連絡先のインポートを許可 (Allow Bluetooth Contacts Import)	ユーザーは、Bluetooth デバイスから連絡先と通話履歴をインポートして同期できます。 デフォルト：[有効 (Enabled)]
[Bluetooth モバイルハンズフリーモードを許可 (Allow Bluetooth Mobile Handsfree Mode)]	ユーザーがデスクフォンで携帯電話回線を使用できるようにします。 デフォルト：有効
Days Display Not Active	バックライトをデフォルトでオフのままにする日を指定できます。 デフォルト：一般的に、米国企業では [土曜日 (Saturday)] と [日曜日 (Sunday)] されます。 (注) リストにはすべての曜日が含まれています。バックライトを土曜日と日曜日にするには、Ctrl キーを押しながら [土曜日 (Saturday)] と [日曜日 (Sunday)] を選択します。
Display On Time	オフスケジュールにリストされている日にディスプレイが自動的にオンになります。 デフォルト：07:30 最大長：5 (注) 24 時間形式で値を入力します。00:00 が一日の始まりで、23:59 が一日の終わりです。

特長	説明
Display On Duration	<p>プログラミングされたスケジュールによって電源がオンになったときに、ラックがアクティブになるまでの時間を指定します。</p> <p>デフォルト：10:30</p> <p>最大長：5</p> <p>(注) 最大値は 24 時間です。この値は、時間と分の形式です。たとえば、1 時間 30 分の表示をアクティブにします。</p>
Display On When Incoming Call	<p>デバイスがスクリーンセーブモードの場合にこの設定を有効にすると、コール時点でディスプレイがオンになります。</p> <p>デフォルト：有効</p>
[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)]	<p>Power Save Plus 機能を有効にするには、デバイスをスケジュールに従ってモードを選択します。Ctrl キーを押しながら日をクリックすると、Power Save Plus を複数選択できます。Power Save Plus モードでは、1 つのキーを点灯させるのが維持されます。デバイスの他のすべての機能はオフになります。Power Save Plus を使用すると、[電話をオンにする時刻 (Phone On Time)]と[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)]フィールドで指定した期間にデバイスがオフになります。このモードは、組織の通常営業時間外に指定されます。点灯しているキーを押すと、ラックを完全に復元できます。点灯しているキーを押すと、電話機の電源が再投入動作する前に Unified CM に再登録されます。このフィールドで日付を選択すると、このモードの考慮事項を示す通知メッセージが続けて表示されます。Power Save Plus を有効にするによって、この通知で指定された条件に同意したことになります。</p> <p>Power Save Plus モードが有効である間は、モードに設定されたエンドポイントでは無効で、インバウンドコールの受信ができません。このモードを選択すると、このモードを選択したことになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> このモードが有効である間、非常発着信コールの代替手段を提供するお客様が負うものとなります。 Cisco はお客様がモードを選択することに関して一切の責任を負わず、モードを選択することに関するすべての責任はお客様の責任となります。 コール、発信、およびその他に対するモードの影響をユーザーに十分通知する必要があります。 <p>デフォルト：どの日も選択されていません。</p>

特長	説明
[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)]	<p>[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで選択付で、デバイスの電源が自動的にオンになる時刻を指定します。24時間形式で入ります。00:00 は午前 0 時を表します。たとえば、午前 7:00 (0700) に電話をオンにするには、07:00 と入力します。午後 2:00 (1400) に電話をオンにするには、14:00 と入力します。このフィールドが空白の場合、デバイスは00:00に自動的にオンになります。</p> <p>デフォルト : 0:00 最大長 : 5</p>
[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)]	<p>このフィールドは、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで選択された日付で、デバイスの電源が自動的にオフになる時刻を指定します。24時間の形式で時刻を入力します。このフィールドが空白の場合、デバイスは午前00:00に自動的にオフになります。</p> <p>(注) [電話をオンにする時刻 (Phone On Time)]が空白 (または00:00) で、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)]が空白 (または24:00) の場合、デバイスの電源はそのままになり、EnergyWise によるオーバーライドの送信を許可しない限り、Power Save Plus 機能は事実上無効になります。</p> <p>デフォルト : 24:00 最大長 : 5</p>
[電話機をオフにするアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)]	<p>このフィールドは、デバイスが給電側機器 (PSE) に電源オフを要求するまでデバイスがアイドル状態になっている必要がある時間 (分単位) を表します。このフィールドの値は以下の場合に有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスがスケジュール通りに節電プラスモードにあり、ユーザーがキーを押すことで節電プラスモードから解除された場合 • 接続スイッチでデバイスが再びオンになった場合 • [電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)]になったが、通話中の場合単位時間あたり最大長は1440分です。指定できる範囲は20～1440分です。
[音声アラートを有効にする (Enable Audio Alert)]	<p>このチェックボックスがオンになっている場合、[電話をオフにする時刻 (Phone Off Time)] フィールドで指定された時刻の 10 分前にオーディオアラートを再生するよう設定されます。デフォルトでは無効になっています。このチェックボックスを有効にするのは、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで日付以上が選択されている場合だけです。</p>
[EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)]	<p>このフィールドは、電話が参加する EnergyWise ドメインを定義します。EnergyWise ドメインは、Power Save Plus 機能のために必要です。[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで日付を選択した場合は、EnergyWise ドメインを指定する必要があります。デフォルトは空白です。</p> <p>最大長 : 127</p>

特長	説明
[EnergyWise エンドポイントのセキュリティシークレット (EnergyWise Endpoint Security Secret)]	<p>このフィールドは、EnergyWise ドメイン内で通信に使用されるパスワードを定義します。EnergyWise ドメインおよび共有秘密は、Power Save Plus 機能の一部です。[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで選択した場合は、EnergyWise ドメインと秘密を指定する必要があります。デフォルトは空です。</p> <p>最大長：127</p>
[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)]	<p>このチェックボックスにより、電話機に電源レベルの更新を送信するためのメインコントローラのポリシーを許可するかどうかを決定します。いくつかのポリシーは許可されず、無視されます。1つ目に、[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで1日以上を選択する必要があります。[Power Save Plusを有効にする (Enable Power Save Plus)] リストボックスで日付が選択されていない場合、デバイスをオフにするための指示は無視されます。2つ目に、[Unified CMの管理 (Unified CM Administration)] で設定された電力レベル変更の受信を再開します。電力レベル変更コマンドを新たに再送信する必要があります。さらに、すべてのユーザー操作が有効になり、EnergyWise による電源がオフにされた後に、ユーザーがキーを押すと、ユーザーの操作の結果としてデバイスがオンになります。デフォルトでは、オフになっています。</p>
[録音トーン (Recording Tone)]	<p>デバイスで録音トーンを有効にするかどうかを構成するために使用できます。デフォルト：無効</p>
[録音トーンのローカル音量 (Recording Tone Local Volume)]	<p>ローカルパーティに聞こえる録音トーンの音量設定を構成するために使用されます。音量設定は、聞き取りに使用される実際のデバイス（ハンドセット、スピーカヘッドセット）に関係なく適用されます。音量設定は0～100%の範囲内で行われます。0%ではトーンなし、100%では現在の設定と同じ音量になります。デフォルト値は100%です。</p>
[録音トーンのリモート音量 (Recording Tone Remote Volume)]	<p>リモートパーティに聞こえる録音トーンの音量設定を構成するために使用されます。設定は0～100%の範囲内で指定する必要があります。0%では-66 dBm未満、-4 dBmです。デフォルト値は-10 dBmまたは50%です。</p>
録音トーンの長さ	<p>オーディオストリームに録音トーンを挿入する時間をミリ秒単位で示します。デフォルトはこのフィールドのネットワークロケールファイルの値に一致します。このパラメータの有効な値の範囲は1～3000ミリ秒です。</p>

特長	説明
[G.722およびiSACコーデックをアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codecs)]	<p>通話アプリケーションがワイドバンドコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズするかどうかを示します。</p> <p>コーデックのネゴシエーションでは、次の2つの手順が実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通話アプリケーションは、サポートされているコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズする必要があります。 2. Cisco Unified Communications Manager が、通話試行に関連するすべてのデバイスにサポートされるコーデックのリストを取得すると、リージョンペア設定など必要な要因に基づいて一般にサポートされるコーデックが選択されます。 <p>[システムデフォルトの使用 (Use System Default)]</p> <p>有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルト (System Default)] : コールアプリケーションは、エンコードパラメータで指定された設定と異なります。G.722 および iSAC コーデックをアドバタイズします。 • [無効 (Disabled)] : コールアプリケーションはワイドバンドコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズしません。 • 有効 : コールアプリケーションはワイドバンドコーデックを Cisco Unified Communications Manager にアドバタイズします。
[ビデオコール (Video Calling)]	<p>有効にすると、デバイスがビデオコールに参加することを示します。</p> <p>デフォルト : 有効</p>
デバイス UI プロファイル (Device UI Profile)	<p>デバイスのユーザーインターフェイス特性を変更して、基本ビデオ発信者 ([シンプル (Simple)] モード) 、または一般コラボレーションユーザー ([拡張 (Enhanced)] モード) など、特定のユーザーの役割に合わせて最適化します。</p> <p>デフォルト : シンプル (Simple)</p>

特長	説明
Wifi	<p>デバイス上の Wi-Fi が有効であるか、無効であることを示します。</p> <p>(注) [エンタープライズ (Enterprise)] および [共通 (Common)] 設定では、パラメータがデフォルト値 ([有効 (Enabled)]) に設定され、[共通設定のオーバーライド (Override Common Settings)] チェックボックスがオンになっています。</p> <p>(注) [デバイス (Device)] 設定では、Wifi パラメータはデフォルト値 ([有効 (Enabled)]) のままですが、[共通設定のオーバーライド (Override Common Settings)] チェックボックスはオンになっていません。</p> <p>ヒント 企業および共通レベルの展開環境のデフォルト設定が [無効 (Disabled)] になっているすべてのデバイスに対して Wifi のデフォルトを [無効 (Disabled)] に変更する場合は、[共通設定のオーバーライド (Override Common Settings)] が企業ポリシーである場合を除き、Wifi パラメータを [有効 (Enabled)] に設定してデバイスの新しい共通電話プロファイルを作成することをお勧めします。</p> <p>デフォルト：有効</p>
[PC ポート (PC Port)]	<p>PC ポートが有効か無効かを示します。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled)]</p>
[PC ポートへのスパン (Span to PC Port)]	<p>デバイスで PC ポートで送受信されるパケットを転送するかどうかを表示します。</p> <p>(注) 診断目的で使用されるモニタリングと記録用のアプリケーションや、パケットキャプチャ ツールなど、デバイス トラフィックのモニタリングを行うアプリケーションが PC ポート上で実行されている場合は、[有効 (Enabled)] を選択します。この機能を使用するには、[PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access)] を有効にする必要があります。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled)]</p>
[PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access)]	<p>PC ポートに接続されたデバイスに、ボイス VLAN へのアクセスを許可します。</p> <p>(注) ボイス VLAN アクセスを無効にすると、接続された PC はボイス VLAN の送受信ができなくなります。また、デバイスによって送受信されるパケットは PC で受信することもできなくなります。</p> <p>デフォルト：[有効 (Enabled)]</p>
[PC ポートのリモート設定 (PC Port Remote Configuration)]	<p>デバイスの PC ポートの速度とデュプレックスのリモート構成を許可します。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled)]</p>
[スイッチ ポートのリモート設定 (Switch Port Remote Configuration)]	<p>デバイスのスイッチ ポートの速度とデュプレックスのリモート構成を許可します。手動設定は、デバイス上での手動設定よりも優先されます。</p> <p>デフォルト：[無効 (Disabled)]</p>

特長	説明
[Unified CM 接続障害の検出 (Detect Unified CM Connection Failure)]	このフィールドでは、バックアップ Unified CM/SRST へのデバイスのフェール発生する前の最初のステップである、Cisco Unified Communications Manager (UCM) への接続障害を検出するための電話機の感度を決定します。有効な値は、[標準 (Normal)] (標準のシステムレートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) または [遅延 (Delayed)] (標準より約 4 倍遅いレートで Unified CM 接続エラーの検出を実行) です。Unified CM 接続エラーの高速認識のためには、[標準 (Normal)] を選択します。接続を再確認するためにフェールオーバーを少し遅らせる場合は、[Delayed] を選択します。[標準 (Normal)] と [遅延 (Delayed)] の接続エラー検出の正確な時間の差は、常に数の変数に応じて異なります。これは、有線イーサネット接続にのみ適用されます。 デフォルト：[標準 (Normal)]]
[無償 ARP (Gratuitous ARP)]	デバイスが Gratuitous ARP 応答から MAC アドレスを取得するかどうかを示します。 (注) Gratuitous ARP を受信するデバイス機能を無効にすると、この仕組みを介してストリームのモニタリングおよび記録を行うアプリケーションが機能しなくなります。 デフォルト：無効
Cisco Discovery Protocol (CDP) : Switch Port	管理者は、スイッチ ポート上で CDP を有効または無効にできます。 Warning デバイスが Cisco 以外のスイッチに接続されている場合にのみ、ネットワーク上で CDP を無効にします。詳細については、『Cisco Unified Communications Administration Guide』を参照してください。 デフォルト：有効
Cisco Discovery Protocol (CDP) : PC Port	PC ポートで CDP がサポートされているかどうかを示します。 デフォルト：有効
Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : Switch Port (Link Layer Discovery Protocol - Media Endpoint Discover (LLDP-MED) : Switch Port)	管理者は、スイッチ ポート上でリンク層検出プロトコル (LLDP-MED) を有効にできます。 デフォルト：有効
Link Layer Discovery Protocol (LLDP) : PC Port	管理者は、PC ポート上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP) を有効または無効にできます。 デフォルト：[有効 (Enabled)]

特長	説明
[LLDP アセット ID (LLDP Asset ID)]	管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用のアセット ID を設定できます。 最大長：32
[LLDP 電源優先度 (LLDP Power Priority)]	管理者は、Link Layer Discovery Protocol 用の電源優先度を設定できます。 デフォルト：[不明 (Unknown)]
[電力ネゴシエーション (Power Negotiation)]	管理者は、電力ネゴシエーションを有効または無効にできます。 (注) [電力ネゴシエーション (Power Negotiation)]機能は、電力ネゴシエーションをサポートしているスイッチにデバイスが接続されると有効になります。スイッチが電力ネゴシエーションをサポートしていない場合は、アクセス PoE+ で投入する前に、電力ネゴシエーション機能を無効にします。 デフォルト：有効
[自動ポート同期 (Automatic Port Synchronization)]	電話で PC ポートおよび SW ポートを同じ速度とデュプレックスに同期します。自動ネゴシエーション用に設定されているポートのみが速度を変更します。 デフォルト：無効
802.1x 認証	802.1x 認証機能のステータスを指定します。オプション <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)]：デバイスは、802.1X 認証を使用してネットワークアクセスを取得します。 • [無効 (Disabled)]：デフォルト設定では、デバイスは CDP を使用してネットワークアクセスを取得します。 デフォルト：ユーザー制御
FIPS Mode	このパラメータは、デバイスの連邦情報処理標準 (FIPS) モードを設定します。オプションが有効な場合、デバイスは FIPS 140-2 レベル 1 準拠のデバイスです。 デフォルトで、ディセーブルになっています。
[常にVPN (Always on VPN)]	常にデバイスが VPN AnyConnect クライアントを起動し、Cisco Unified Communications Manager の構成済みの VPN プロファイルで接続を確立するかどうかを示します。 デフォルト：[いいえ (False)]
[デバイス上に VPN パスワードを保存 (Store VPN Password on Device)]	このパラメータは VPN パスワードがデバイスに保存できるかどうかを制御します。オプションはパスワード永続性が連携できるように設定されている場合にのみ使用されます。場合、ユーザーの VPN パスワードはメモリに格納され、以降の接続で自動的に読み込まれます。ただし、デバイスの再起動時は、VPN パスワードを再入力する必要があります。オプションが有効の場合、ユーザーの VPN パスワードはデバイスに保存され、再起動時も自動的に読み込まれます。 デフォルト：[いいえ (False)]

特長	説明
[ユーザ定義VPNプロファイルの許可 (Allow User-Defined VPN Profiles)]	<p>ユーザーは AnyConnect VPN クライアントを使用して VPN プロファイルを作成するかを制御します。無効にすると、ユーザは VPN プロファイルを作成できません。</p> <p>デフォルト : [はい (True)]</p>
[スクリーンロック必須 (Require Screen Lock)]	<p>デバイス上で画面ロックが必要かどうかを示します。オプション</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー制御。 • [暗証番号 (PIN)] : 数字のパスワードで、少なくとも 4 桁の長さが必要で • [パスワード (Password)] : 英数字のパスワードは、少なくとも 4 つの英数字、そのうち 1 つは数字以外の文字、1 つは大文字である必要があります <p>デフォルト : [暗証番号 (PIN)]</p>
最大スクリーン ロック タイムアウト	<p>デバイスによって画面が自動的にロックされるまでの最大アイドル時間を秒単位で示します。画面がロックされると、画面のロックを解除する際にユーザパスワードが必要です。</p> <p>デフォルト : 600</p> <p>最小値 : 15</p> <p>最大値 : 1800</p>
[ディスプレイがオンの時刻に画面ロックを強制する (Enforce Screen Lock During Display-On Time)]	<p>このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager で設定された期間後に画面がロックされないような、ユーザが業務時間全体でこれらのデバイスを自由に使用できるように、消極的なロックポリシーを提供します。作業後、デバイスはポリシーの定義に従って自動的にロックされ、権限のないユーザがアクセスすることを防ぎます。デバイスは、会議室の管理のためにユーザ制御の手動ロックオプション (電源ボタン) を常にサポートし、デバイスは、ユーザが次の使用時に PIN/パスワードを入力するまでロックされます。[オン (ON)] : デバイスは業務時間中またはディスプレイ点灯時刻の間、画面がロックされます (デフォルト設定)。[オフ (OFF)] : デバイスは、ディスプレイ消灯後、業務時間後のみに、上に示されている日付/時刻設定に基づいてロックされます。</p> <p>デフォルト : [はい (True)]</p> <p>(注) このパラメータを無効にすると、デバイスにインストールされている、このタイムアウトに関連するすべてのサードパーティ製デバイス管理ポリシーは無効になります。</p>
[オーディオコール中にデバイスのロック (Lock Device During Audio Call)]	<p>デバイスが充電中状態で、アクティブなボイス メールが進行中の場合、管理者はスクリーンロック暗証番号の強制タイマーをオーバーライドして、オーディオコール中にデバイスのロックをアクティブのままにすることができます。スクリーンロック タイマーは、オーディオコールが完了し、タイマーの時間を超過した後で有効になります。</p> <p>デフォルト : [無効 (Disabled)]</p>
[Kerberos サーバ (Kerberos Server)]	<p>Web プロキシ Kerberos の認証サーバ。</p> <p>最大長 : 256</p>

特長	説明
[Kerberosレルム (Kerberos Realm)]	Web プロキシ Kerberos の認証 realm。 最大長：256
[ロードサーバ (Load Server)]	デバイスが、定義されている TFTPサーバではなく、代替サーバを使用して、アロードとアップグレードを取得することを示します。 デフォルト：ローカルサーバのホスト名または IP アドレス 最大長：256
ピアファームウェア共有	サブネット内の単一のデバイスがイメージファームウェアファイルを取得し、ピアデバイスに配布できるようにするために、ピアツーピアイメージ配布を有効または無効にします。 デフォルト：[有効 (Enabled)]
[ログサーバ (Log Server)]	ログメッセージの送信先となるリモートシステムの IP アドレスとポートを指定します。 デフォルト：リモートシステムの IP アドレス 最大長：32
[ログのプロファイル (Log Profile)]	事前定義されたデバッグ コマンドをリモートで実行します。 デフォルト：プリセット (Preset)
Web アクセス	デバイスが Web ブラウザまたはその他の HTTP クライアントからの接続を受け入れるかどうかを示します。 デフォルト：無効
[SSH アクセス (SSH Access)]	このパラメータは、デバイスが SSH 接続を受け入れるかどうかを示します。SSH サーバ機能を無効にすると、デバイスへのアクセスはブロックされます。 デフォルト：無効
Android Debug Bridge (ADB)	デバイスの ADB を有効または無効にします。 [有効 (Enabled)]、[無効 (Disabled)]、または [ユーザー制御 (User Control)]に設定できます。 デフォルト：無効
マルチユーザ (Multi-User)	マルチユーザをデバイスで有効にするか、無効にするかを示します。 デフォルト：無効

特長	説明
[不明な提供元からのアプリケーションの許可 (Allow Applications from Unknown Sources)]	<p>URL から、あるいは電子メール、インスタントメッセージ (IM) 、または SD カード経由で受け取った Android アプリケーションパッケージファイルから、ユーザーが Android アプリケーションをデバイス上にインストールできるかを制御します。</p> <p>[有効 (Enabled)]、[無効 (Disabled)]、または [ユーザー制御 (User Controlled)] できます。</p> <p>デフォルト : 無効</p>
Google Play からのアプリケーションを許可	<p>Google からユーザーが Android アプリケーションをインストールできるかどうかを許可します。</p> <p>(注) Google Play にある一部のアプリケーションには、GPS や背面カメラなど DX シリーズデバイスでは使用できないハードウェア要件がある場合があります。シスコはサードパーティのサイトからダウンロードされたアプリケーションを保証できません。</p> <p>デフォルト : False</p>
[Cisco UCM アプリケーションクライアントの有効化 (Enable Cisco UCM App Client)]	<p>アプリケーションクライアントがデバイス上で動作するかどうかを制御します。アプリケーションクライアントが有効な場合、ユーザーは Cisco Unified Communications からインストールするアプリケーションを選択できます。</p> <p>デフォルト : False</p>
[企業写真ディレクトリ (Company Photo Directory)]	<p>デバイスがユーザーをクエリし、そのユーザーに関連付けられている画像を取得できる URL を指定します。</p> <p>例 : http://www.cisco.com/dir/photo/zoom/%%uid%%。uid は従業員のユーザー ID</p> <p>デフォルト : 写真ディレクトリ URL</p> <p>最大長 : 256</p>
[ボイスメールサーバ(プライマリ) (Voicemail Server (Primary))]	<p>プライマリ ビジュアル ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。</p> <p>デフォルト : プライマリ ビジュアル ボイスメール サーバの IP アドレス</p> <p>最大長 : 256</p>
[ボイスメールサーバ (バックアップ) (Voicemail Server (Backup))]	<p>バックアップ ビジュアル ボイスメール サーバのホスト名または IP アドレス。</p> <p>デフォルト : バックアップ ビジュアル ボイスメール サーバの IP アドレス</p> <p>最大長 : 256</p>
プレゼンスおよびチャットサーバ(プライマリ) (Presence and Chat Server (Primary))	<p>プライマリ プレゼンス サーバのホスト名または IP アドレス。</p> <p>デフォルト : プライマリ プレゼンス サーバの IP アドレス</p> <p>最大長 : 256</p>

特長	説明
[プレゼンスおよびチャットサーバタイプ (Presence and Chat Server Type)]	デバイスが使用するセカンダリ プレゼンスおよび IM サーバのタイプを指定します。 Cisco Unified Presence または Cisco WebEx Connect に設定できます。 デフォルト : Cisco WebEx Connect
[プレゼンスとチャットのシングルサインオン (SSO) ドメイン (Presence and Chat Single Sign-On (SSO) Domain)]	企業に対するシングルサインオン (SSO) 認証を実施するために Cisco WebEx Connect で使用されるエンタープライズ ドメイン。 デフォルト : 空のフィールド 最大長 : 256
マルチ ユーザ URL (Multi-User URL)	このパラメータは、エクステンション モビリティ サーバの URL を指定します。 最大長 : 256
Expressway ログイン用 ユーザ クレデンシャル パーシステント	このパラメータは、Expressway クレデンシャルをデバイスに保存できるかどうかを指定します。 デフォルト : [無効 (Disabled)]
[カスタマー サポートのアップロード URL (Customer support upload URL)]	これは、ユーザーがエンドポイントで「問題報告ツール」から問題報告ファイルをアップロードできるサーバアドレスを設定します。 最大長 : 256
クラッシュレポートの自動アップロード	このエンドポイントからクラッシュレポートを自動的にアップロードするかどうかを有効にします デフォルト : 無効
代替電話帳サーバのタイプ	デフォルトで、エンドポイントは登録先の UCM 上の UDS サーバを使用します。代替電話帳サーバの使用を希望する場合は、このパラメータを代替電話帳のタイプと合わせて、エンドポイントのデフォルト設定をオーバーライドします。UDS サーバタイプを UDS として設定します。 デフォルト : UDS
代替電話帳サーバのアドレス	デフォルトで、エンドポイントは登録先の UCM 上の UDS サーバを使用します。代替電話帳サーバの使用を希望する場合は、このパラメータを代替電話帳のタイプと合わせて、エンドポイントのデフォルト設定をオーバーライドします。フィールドは UDS サーバの完全な URL が必要です。UDS サーバ URL の例 : https://uds-host-name:8443 最大長 : 256

(注) 追加の構成の詳細については、『Cisco DX Series Wireless LAN Deployment Guide』を参照してください。

ビデオ送信解像度のセットアップ

Cisco DX シリーズ デバイスは、高解像度のマルチタッチカラーLCD と内蔵カメラによるビデオ通話をサポートしています。デバイスでビデオを送受信するには、Cisco Unified Communications Manager でビデオ機能を有効にする必要があります。



- (注) [ビデオ コール (Video Calls)] オプションが [オフ (Off)] に設定されている場合、[ビデオの自動送信 (Auto Transmit Video)] 設定はグレー表示されます。[製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] ウィンドウでビデオ コールが無効になっている場合、[コール設定 (Call settings)] メニューのすべてのビデオ設定はグレー表示されます。

表 4: ビデオ送信の解像度と機能

ビデオタイプ	ビデオ解像度	FPS	ビデオ ビットレート範囲 (帯域幅)	DX650 外部カメラのサポート
240p	432 x 240	15	64 ~ 149 kbps	はい。ただし、Logicool C930e は 424 X 240 のビデオ解像度を使用します。
240p	432 x 240	30	150 ~ 299 kbps	はい。ただし、Logicool C930e は 424 X 240 のビデオ解像度を使用します。
360p	640 x 360	30	300 ~ 599 kbps	はい
480p	848 X 480	30	600 ~ 799 kbps	はい。ただし、Logicool C920-C は 864 x 480 のビデオ解像度を使用します。
576p	1024 X 576	30	800 ~ 1299 kbps	はい
600p	1024 X 600	30	800 ~ 3000 kbps	いいえ
720p	1280 X 720	30	900 ~ 1999 kbps	はい
1080p	1920 X 1080	30	2000 ~ 4000 kbps	はい
CIF	352 X 288 (4:3)	30	64 ~ 299 kbps	はい
VGA	640 X 480 (4:3)	30	400 ~ 1500 kbps	はい



(注) 外部カメラは、これらの解像度の一部（600pなど）をサポートしておらず、外部カメラが動作できる最小ビットレートは 64 kbps です。



(注) Cisco DX650 が Logicoool C920-C Web カメラを使用しているコール中にあり、リモート デバイスがパケット化モード 0 のみをサポートしている場合、最大送信解像度は 640x360 です。パケット化モード 1 を使用する場合、最大送信解像度は 1920x1080 です。



(注) Cisco DX シリーズデバイスの VGA を超える最適な解像度は w360p です。400 kbps ~ 999 kbps の帯域幅の場合、デバイスは w360p を送信します。

インスタントメッセージングとプレゼンスの設定

インスタントメッセージングとプレゼンスを使用すると、ユーザーはいつでも、どこでも、どのデバイスでも通信できます。Cisco DX シリーズ デバイスは、Cisco Unified Presence または Webex バックエンドサーバのいずれかで Jabber IM をサポートします。セキュリティ上の理由から、すべてのクラウドベースのインスタントメッセージングとプレゼンストラフィックはプロキシ経由でルーティングされます。

インスタントメッセージングとプレゼンスは、デバイスの [製品固有の構成（**Product Specific Configuration**）] ウィンドウで、デバイス、グループ、またはエンタープライズレベルで構成します。プレゼンスおよびIMサーバ（プライマリ）およびプレゼンスおよびIMサーバ（バックアップ）のホスト名またはIPアドレスを入力し、プレゼンスおよびIMサーバのタイプを指定します。

アプリケーションの設定

ユーザーはアプリケーションをダウンロードして、デバイスの機能をカスタマイズおよび拡張できます。アプリケーションは Google Play からダウンロードできます。Cisco Unified Communications Manager 管理では、（個々のデバイス設定ウィンドウまたは [共通の電話プロフィール（**Common Phone Profile**）] ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト（**Product Specific Configuration Layout**）] 領域で）次のパラメータを構成することで、アプリケーションにアクセスできます。

- [不明なソースからのアプリケーションを許可（**Allow Applications from Unknown Sources**）] : ユーザーが Google Play 以外のソースからアプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。

- [Google Play からのアプリケーションを許可 (Allow Applications from Google Play)] : ユーザーが Google Play からアプリケーションをインストールできるかどうかを制御します。
- [Cisco UCM アプリケーションクライアントの有効化 (Enable Cisco UCM App Client)] : 管理者が Cisco Unified Communications Manager からアプリケーションをプッシュする機能を制御します。

UCM アプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager で作成された Android アプリケーションを登録または登録解除するために使用できるデバイス上のクライアントです。このクライアントは、Cisco Unified Communications Manager から Android アプリケーションをサブスクライブまたはサブスクライブ解除するのと同じ機能を提供しますが、デバイスからこれを行う利便性が追加されます。

[Cisco UCM アプリケーションクライアントの有効化 (Enable Cisco UCM App Client)]

手順

ステップ 1 デバイスの [デバイス構成 (Device Configuration)] ウィンドウの [製品固有の構成レイアウト (Product Specific Configuration Layout)] 部分で、[Cisco UCM アプリケーションクライアントの有効化 (Enable Cisco UCM App Client)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

このアクションにより、デバイスに UCM アプリケーションクライアントがインストールされます。

UCM アプリケーションクライアントがデバイスにインストールされた後、デバイスユーザーは、UCM アプリケーションクライアントにログインすることで、Cisco Unified Communications Manager で作成されたアプリケーションを登録または登録解除できます。

エンドユーザーを作成して UCM アプリにログイン

管理者は、エンドユーザーを作成し、エンドユーザーをデバイスに関連付け、エンドユーザーをデバイス所有者として割り当てる必要があります。

手順

ステップ 1 エンドユーザーを作成します。(Cisco Unified Communications Manager 管理で、[ユーザー管理 (User Management)] > [エンドユーザー (End User)] を選択して新しいエンドユーザーを作成します)。

- ステップ2** デバイスをエンドユーザーに関連付けて、デバイスがエンドユーザーの [管理対象デバイス (Controlled Devices)] の下に表示されるようにします。
- ステップ3** 標準 CCM エンドユーザー権限をエンドユーザーに割り当てます。
- ステップ4** デバイスの [デバイス構成 (Device Configuration)] ウィンドウで、このエンドユーザーを [所有者ユーザー ID (Owner User ID)] フィールドに割り当てます。

UCM アプリでユーザーの登録

デバイスユーザーは、デバイス上の UCM アプリを使用して、Cisco Unified Communications Manager で作成されたアプリケーションを登録または登録解除します。

手順

- ステップ1** エンドユーザーのログイン情報を使用して、デバイスの UCM アプリケーションにログインします。
- ログインに成功すると、Cisco Unified Communications Manager で作成されたすべての Android アプリケーションが UCM アプリケーションに表示されます。
- ステップ2** アプリケーションを登録するには、アプリケーション名の横にあるチェックボックスをオンにします。
- このアクションにより、デバイスへのアプリケーションのダウンロードとインストールがトリガされます。
- (注) 一部のアプリケーションは、詳細情報をユーザーに提示します。ボックスをオンにするか、アプリケーションを選択すると、2番目の画面が表示されます。これらのアプリケーションに登録するには、2番目の画面のチェックボックスをオンにして、[戻る (Back)] をタップします。このアクションにより、インストールがトリガされます。
- ステップ3** アプリケーションの登録を解除するには、アプリケーション名の横にあるチェックボックスをオフにします。

Cisco Unified Communications Manager を介して Android APK ファイルをプッシュする

Cisco Unified Communications Manager から Android APK ファイルをプッシュするには、まずアプリケーションを電話サービスとして構成し、次にデバイスをサービスに登録します。

手順

ステップ 1 次の apktool を使用して、APK から AndroidManifest ファイルを抽出します。

<http://code.google.com/p/android-apktool/>

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager 管理で Android サービスを追加します。

ステップ 3 デバイスを Android サービスに登録します。

Cisco Unified Communications Manager 管理で Android サービスを追加する

Cisco Unified Communications Manager 管理で Android サービスを追加するには、次の手順を実行します。

始める前に

この手順は、APK から AndroidManifest ファイルを抽出した後に使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)] を選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [サービス名 (Service Name)] フィールドに、APK から抽出した AndroidManifest ファイルのパッケージ名と一致する名前を入力します。

ステップ 4 [サービス カテゴリ (Service Category)] ドロップダウンリストボックスで、[Android APK] を選択します。

ステップ 5 このウィンドウの他のフィールドはオプションです。AndroidManifest ファイルに表示される情報を入力できます。

ステップ 6 [有効 (Enable)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

Android 電話サービスへのデバイスの登録

始める前に

デバイスをその電話サービスに登録する前に、Cisco Unified Communications Manager の管理で Android 電話サービスを追加する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager 管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 表示される [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phone)] ウィンドウで、Android 電話サービスに登録するデバイスを検索します。
- ステップ 3** 選択したデバイスの [デバイス名 (Device Name)] エントリをクリックします。
- ステップ 4** デバイスの [電話構成 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択します。
- <device name> ウィンドウに登録された Cisco IP 電話サービスが開きます。
- ステップ 5** デバイスの [登録済み Cisco IP 電話サービス (Subscribed Cisco IP Phone Services)] ウィンドウで、[サービスの選択 (Select a service)] ドロップダウン リスト ボックスを使用して、作成したサービスを選択します。
- このアクションにより、指定したサービスへのデバイスのサブスクリプションがトリガされます。
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。